



上信電氣鐵道沿線案内

山名水泳場 高崎十二分山名三十分山名水泳場前

位置 山名驛附近。停留所あり。
所要金 高崎より往復 大人二〇〇銭 小八二〇〇銭
時間 高崎より 十五分

山名水泳場は鑄川の清らかな流を利用した自然の風物そのまゝのプールです。河床は奇麗な小砂利と砂、水の奇麗な照は人工プールの比ではありません。水温は極めて高く、河原の紫外光線は保健上最も適していると、醫學上の好評を得ています。都會化した、俗悪な風紀の侵入してある海水浴場を選んで、多額のお金を散らす事は時間の無駄であり、可愛い弟の教育上にも、一挙兩利であることが、高崎の人にはよくお解りの様でした。爲に高崎だけでも一夏約十二萬の大衆がおし寄せられて呉れました。事實は雄辯で御座います。一度御遊覧の程をお願ひいたします。

山名水泳場十勝
一、この水泳場は、人工によつたプールと違つて鑄川の清らかな水をたへた流であります。
一、水泳の初歩の人にも、熱練してゐる人にも、それぞれ適當な深さと、到底人工プールの眞似の出来ない廣さを有つてゐます。
一、河床は奇麗な細い砂利と砂とで、すから氣持がよろしうございます。流も水泳に邪魔にならぬ靜かな流です。
一、お小供さん達の水遊には至極適當なところで、危険もなく、おからだの爲にもよろしう存じます。恐らくこんな理想的な水泳場は、この附近にはありません。

一、まつ水温の高いことが不思議です。水のなかにある方が反つて温かです。
一、嚴寒に備へる健康體は酷暑の夏から心掛けねばなりません。
一、山名水泳場は皆さまの御家庭の主治醫の役目を持つてゐます。一週間ばかりあつた皮膚を練へ、心臓を強健にし、新陳代謝を盛にして食慾を増進させ、冬感冒にかかされた時、お醫者にかゝつた事を考へて。
一、先づ健康です。水泳は精神を爽快にするばかりでなく、皮膚を練へ、心臓を強健にし、新陳代謝を盛にして食慾を増進させることは、要しません。

一、水泳を呑んでも十銭や二十銭はお小遣を使ひませう。まして不潔な空氣の充滿してゐる場所に夏の熱いにお小供さんや救護所も設けてありますから御遠慮なく御申出下さい。
一、お酒類は一切販賣いたしません。皆様の保健上を願ひいたします爲に。水泳場開設中は、各種の催物をいたしまして、慰安をおねの一端を表します。蟹勇水中水瓜とり。各種寶探し。花形水泳選手のタイピング。競泳大會。ジャズダンス。救護所も設けてありますから御遠慮なく御申出下さい。

山名の櫻 山名驛下車 鑄川一帯
鑄川山名水泳場附近沿岸一帯に櫻樹數千を植へ付けました。向後十年後に於ける山名の櫻時はまさに川にボート、岡に櫻、自然と人工の一大遊園地を形成せしむる計畫を着々進めてあります。

妙義山縦走の快
上野→高崎→下仁田→中ノ嶽→金洞山→白雲山→妙義山
磯部又は松井田→上野→遊覧資金四圓以内(五月上旬)
妙義山と云へば、新緑の萌え出づる若葉の頃、錦繡を織りなす秋の紅葉の頃、巖たる巖を點綴する趣、石門の怪、洞穴の奇、射若大夫の矢穴、むすび穴、轟大尉の轟岩等の傳説、實話等いやが上にも妙義の名を天下になびかせて仕舞つた。妙義は金洞、金洞、白雲の三山の總稱で、金洞山は海拔八五六米、三山中最も低く、頂上を極むることは極めて易たむる。頂はまさに展望臺として眼界開け遠く關東平野は一望の下に展開されてゐる。金洞、白雲亦然り、山の雄姿の誇を體驗し得る。

昭和四年十一月三日東京登山會、日本旅行協會主催で妙義山縦走の壯業が行はれた。これは下仁田から金洞山中岳へ金洞山の腹脊から縦走コースを開始して應返しの嶮を越え、バラ尾根を経て相馬嶽、天狗岳、それより白雲山の難コースに入り猿江の鐵索を下り妙義山麓の字に到り、白馬を渡り、妙義神社に出てはつと蘇生の思ふと云ふのであります。心臓を衰へ、これに比しその快、その雄壯さ、些の遜色がないのみならず、より以上縦走の變化があり、江湖に推奨するに足るものがあります。所要時間約八時間餘を要します。
妙義中の岳神社から石門廻、大砲岩、蟻の戸渡等の御見物は銀座通で婦女子向。縦走コースは山手、男性的雄大な味を御希望の方に御すゝめいたします。

東京から二泊三日の旅
荒船山縦走第二コース
上野發午後四時二十分 下仁田着午後八時三十九分 一泊(泊泊料)
下仁田發午後八時三十分 上野着午後二時三十分 二泊(泊泊料)
上野 下仁田往復四圓七八銭

神津牧場は物見山東面一帯のなだらかな幾つかのスロープを取り入れた奇麗な牧場です。物見山の牧草が繁茂してゐる草原のどこかで、繪であり、詩であります。夏のキャンパ生活、秋の小草の咲き乱れた様は何とも云はれぬなつかしみがあります。牛乳の良質なる點は札幌の農科大學から研究に來られてゐるのを見ても解ります。紫外光線と霧の深い濕潤な空氣が牧草繁茂に非常な關係があつて乳牛の發育を良好ならしめ牛乳の質に影響するのだと云ふ結論を得たと云ふことです。良質のバターを搾取してあります。多くは東京へ出してあります。

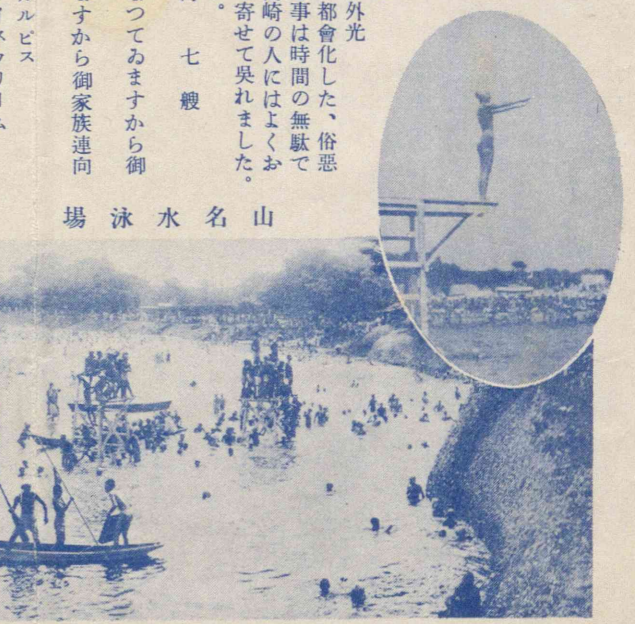
荒船の艘の突ツ鼻お鉢廻りも雄大な眺望を擅にし得られますが、軸の今日家の頂上はこれ亦偉大なる展望臺であります。海抜約五千尺。その目の下に展開する石楠花が白樺の密林中に簇生咲き誇つてゐる五月初旬、秋の紅葉時、傳説材木岩の奇、歸路星尾の線ヶ瀧、木の葉の化石する鑛泉の湧出、溪流に棲む山椒魚、おもしろい、捕獲、變化に富む荒船登山は憶に隠れたる景勝の山として、手答へあるものとしておすゝめいたします。
神津から矢川を経て下仁田に出ます。また輕井澤へ四里、山を越えて、そこから上野へ歸るコースもよろしいでせう。

上野三碑めぐり
高崎→根小屋→金井澤→山ノ上→上野
多胡碑はまた那須國造の碑、仙臺多賀城の碑と共に日本三古碑のうちの一つに數えられてゐます。
山ノ上の碑、金井澤の碑、多胡碑を上野三碑と申します。

山ノ上の碑、金井澤の碑は共に山名驛から下車してもよろしう御座います。金井澤の碑は根小屋驛で下車するのが順路でせう。それから山ノ上の碑へ出て山名驛から電車で吉井驛へ行きます。吉井から多胡までは二十分の徒歩です。多胡碑にまつはる傳説は色々あります。代表的なものを一つ申しませう。

人皇四十三代元明天皇は羊太夫宗務の勳功を嘉して和宗四年片岡緑野、甘葉三郡の内三百戸を合せて、多胡としてこれを宗勝に賜つた。羊は朝恩に感激して、奈良の都へ數百里、八東小徑を供に連れて精勵格闘したのであつたが、小徑の死後朝敵視され、天引の居城を屠ふられた。池村に自刃した。羊の姫七人は黄金の輿に乗り落ち延びんとしたが、追討軍の爲に哀れ奉をも待たず刃の輿となつた。村人はこの七つをなきからと輿とを懸に攀つたのが七輿山、七輿山の松は幹が七つに分れてゐるものも不思議である勿論傳説であります。然し碑文と對照し、片岡、綠野、甘葉、多胡、八東等の現在から見れば何等かの關係があり相にも思はれるではありませんか。

辨官符上野國片岡郡綠野郡甘葉郡三郡内三百戸郡成給羊成多胡郡和宗四年三月九日甲寅宣左中辨正五位下多治比真人太政官二品程親王左大臣正二位右大臣正二位藤原藤原多胡碑は古來その碑文については俗説學說紛々として確かなる考證を得てありません。中村不折畫伯などは書體の研究から碑文の研究について種々申してあります。



山名水泳場

妙義山縦走の快
上野→高崎→下仁田→中ノ嶽→金洞山→白雲山→妙義山
磯部又は松井田→上野→遊覧資金四圓以内(五月上旬)
妙義山と云へば、新緑の萌え出づる若葉の頃、錦繡を織りなす秋の紅葉の頃、巖たる巖を點綴する趣、石門の怪、洞穴の奇、射若大夫の矢穴、むすび穴、轟大尉の轟岩等の傳説、實話等いやが上にも妙義の名を天下になびかせて仕舞つた。妙義は金洞、金洞、白雲の三山の總稱で、金洞山は海拔八五六米、三山中最も低く、頂上を極むることは極めて易たむる。頂はまさに展望臺として眼界開け遠く關東平野は一望の下に展開されてゐる。金洞、白雲亦然り、山の雄姿の誇を體驗し得る。

昭和四年十一月三日東京登山會、日本旅行協會主催で妙義山縦走の壯業が行はれた。これは下仁田から金洞山中岳へ金洞山の腹脊から縦走コースを開始して應返しの嶮を越え、バラ尾根を経て相馬嶽、天狗岳、それより白雲山の難コースに入り猿江の鐵索を下り妙義山麓の字に到り、白馬を渡り、妙義神社に出てはつと蘇生の思ふと云ふのであります。心臓を衰へ、これに比しその快、その雄壯さ、些の遜色がないのみならず、より以上縦走の變化があり、江湖に推奨するに足るものがあります。所要時間約八時間餘を要します。
妙義中の岳神社から石門廻、大砲岩、蟻の戸渡等の御見物は銀座通で婦女子向。縦走コースは山手、男性的雄大な味を御希望の方に御すゝめいたします。

東京から二泊三日の旅
荒船山縦走第二コース
上野發午後四時二十分 下仁田着午後八時三十九分 一泊(泊泊料)
下仁田發午後八時三十分 上野着午後二時三十分 二泊(泊泊料)
上野 下仁田往復四圓七八銭

神津牧場
はねこしの鮎漁
下仁田はねこし假停留場下車(上野より往復)
釜ヶ淵の築は多胡屋、片山の築は大正棟、はねこしには新杉原、常盤の旗亭があります。
山名八幡
山名驛前 高崎から往復 大人三十九銭 小人十九銭
毎年四月十五、六日と十月十五、六日の二回祭典があります。
小兒蟲封しの神様として、十月十五、六日の如きは大した参詣者が参ります。この祭に小供の頭へかむるお獅子は山名八幡獨特のもので俳味たつぷりの天下第一品のものでせう。お小供さんづれの参詣者は必ずこのお獅子と蟲切鎌とを買ふて歸ります。お小供さんにごのお獅子をかむせてやるとオデキが出来ないと云ふこと、蟲のセヒで夜泣きすることや肝の強いためによく泣くやうなお小供さんの蟲も切れると云ふ御利益があらたかだと申されてあります。

國幣中社眞前神社
上州一ノ宮驛下車徒歩十分
上野國一ノ宮、一國一社の眞前神社、祭神經津主命、神殿は特別保護建造物に指定されてあります。極彩色に塗られた社殿の美、神苑の幽邃なるまことに壯嚴の氣にうたれます。
昔のまゝなる流瀧馬の古事は三月十五日に行はれます。
十二年目毎に神殿御修繕の爲に御遷座祭が十二月十日眞夜中に勅使参向のもとに行はれ非常な賑ひをいたします。
二月節分祭は神前に於て嚴かに行はれ、家内一族郎黨の出世開運幸福除厄を祈願する人々で雜沓いたします。
年男には一流の人氣俳優、文士、畫家、力士等を招いて毎年趣向を變へて盛に行ひます。
お小供さんの爲に「蟲切鎌」をお守としてお受けになられます人が多うございます。